

熊本地震におけるクラッシュ症候群の実態調査

研究協力をお願い

地震で倒壊した建物などに身体を長時間挟まれると挟まれた部位の組織が破壊され、救出するために挟まれたものを取り除くと破壊された組織から様々な物質が体内に放出され、急激に状態が悪化し、時に死に至るクラッシュ症候群という状態になります。しかし、データも少なく詳しいことが分かっていません。

当科では「熊本地震におけるクラッシュ症候群の実態調査」という研究を日本医科大学中央倫理委員会の承認および研究機関の長（院長：中井章人）の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して行います。研究目的や研究方法は以下のとおりです。直接のご同意はいただきず、この掲示によるお知らせをもって実施します。

皆様方には研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力をお願いします。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問などは下記の問い合わせ先へご連絡ください。

1. 研究の対象

熊本地震により身体の一部を挟まれて受傷し、熊本赤十字病院、熊本大学病院または済生会熊本病院に救急搬送、またはその他の手段で搬送された患者さん。

2. 研究の目的

本研究の目的は、熊本地震で身体を挟まれた方のうちクラッシュ症候群になった方の割合や生存した方の割合、後遺症の状態など、まだ解明されていないクラッシュ症候群の実態を、受診した際のカルテ記録や検査結果から調査することです。

3. 研究の方法

この研究は、日本医科大学多摩永山病院 救命救急科を研究代表機関とする多機関共同研究で、研究代表者および研究事務局は日本医科大学多摩永山病院 救命救急科 阪本太吾です。他の参加研究機関は独立行政法人国立病院機構本部 DMAT 事務局（研究責任者：小井土雄一）、順天堂大学医学部附属練馬病院（研究責任者：大場次郎）、熊本赤十字病院（研究責任者：寺住恵子）、熊本大学病院（研究責任者：小川克大）、済生会熊本病院（研究責任者：川野雄一郎）です。

熊本地震により身体の一部を挟まれてクラッシュ症候群の疑いがあると診断されたあなたの背景、挟まれた時の状況、血液検査結果、治療内容、退院時の運動機能や生死などの情報を収集し解析します。

研究実施期間は実施許可日から 2025 年 3 月 13 日までです。

本研究は、外部機関との利益相反はありません。

4. 研究に用いる試料・情報

この研究は、あなたの以下の情報をカルテ記録や検査結果から調査します。

試料：なし

情報：年齢、性別、血圧値、脈拍値、意識レベル、酸素飽和度値、血液検査値など

利用を開始する予定日：研究実施許可日

提供を開始する予定日：研究実施許可日

情報の提供を行う機関：熊本赤十字病院（院長：平田稔彦）、熊本大学病院（院長：馬場秀夫）、済生会熊

本病院 (院長 : 中尾浩一)

情報の提供を受ける機関 : 日本医科大学多摩永山病院 (院長 : 中井章人)

情報の取得の方法 : 研究目的でない診療の過程で取得

この研究に関する情報は、参加研究機関の責任者がインターネットに接続していないパーソナルコンピュータを使用して情報をまとめ、容易に個人を特定できないように記号化した番号により管理し、パスワード付の USB フラッシュメモリに記録して、日本医科大学多摩永山病院救命救急科の阪本太吾まで郵送し医局のインターネットに接続されていないパスワードのかかったパーソナルコンピュータに保管するため、あなたの個人情報を個人が特定できる形で使用することはありません。

また、患者さんから、研究を継続されることについて同意の撤回がなされた場合は、個人情報は速やかに廃棄します。また、研究結果の報告、発表に関して、個人を特定される形では公表しません。

5. 問い合わせ先窓口

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の患者さんの個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

また、試料・情報が研究に用いられることについて、患者さんまたは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

担当者 : 済生会熊本病院 救急科 川野雄一

熊本県熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号

電話番号 : 096-351-8000 (代表)